

ぶんかざいまるちなび

No.43

文化財 知 ナビ

このニュースレターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。

ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。

ぶんかざい
生活のなかの文化財

「文化財」とは、長い歴史の中で生まれ、はぐぐまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産のことです。

わたしたちの生活のなかには、建造物、美術工芸品といった「有形文化財」や演劇、音楽、工芸技術等の「無形文化財」、衣食住、信仰、年中行事等の「民俗文化財」等がたくさんあります。

国や北海道では、これらの文化財が次世代に受け継がれるよう、保存・伝承、活用をするために、特に重要なものを選んで保護しています。また、後継者養成のための研修事業等を行ったり、修理や活用事業への助成をしています。

なお、北海道の文化財については、北海道教育委員会のホームページに掲載しています。ぜひのぞいてみてください。

http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/bunka_hogo_toppage.htm

《代表的な文化財》



[国指定重要無形民俗文化財] アイヌ古式舞踊



[国指定有形民俗文化財]

留萌のニシン漁撈（旧佐賀家漁場）用具（留萌市）



[記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財]

アイヌの建築技術及び儀礼（写真はチセノミ（新築祝い））

「松前神楽」

「松前神楽」は、江戸時代から主に北海道の日本海沿岸地域や道南地域など広い地域で神職（神社に用いて神様をお祭りする儀式を行う人たちが中心となって）伝承されてきた神楽（神様をお祭りするときに行う、楽器の伴奏や歌に合わせて舞を舞うもの）です。そのため、洗練された伝統芸能としてはぐくまれてきました。

「アイヌ古式舞踊」とともに国の重要無形民俗文化財に指定されています。



ゆたてしんじ
「湯立神事」

「松前神楽」は、江戸時代以来の伝統を引き継ぎ、さらに道内各地で、それぞれの地域の特色を加えながら広く行われるようになっていきました。

芸能の移り変わりの過程や地域的な特色を示す、重要な文化財です。

道内各地の神社の例祭や新年祭、船魂祭等において神社拝殿で演じられるほか、厄除け祈願や新築祝い等の依頼に応じて個人宅でも行われています。

また、新年の門祓いとして地区の家々を巡って獅子が舞うこともあります。



《松前神楽北海道連合保存会提供》



ししまい
「獅子舞」



《松前神楽北海道連合保存会提供》

保護団体である「松前神楽北海道連合保存会」では、小・中学校等で松前神楽を披露したり、興味・関心のある子どもたちに対して練習会や発表会を通じて伝承活動を行っています。